

質問 5-5 もともと歴史的にさまざまな素材や経緯の中でつくられてきた堤防について、「計画水位」と人為的、事後的に決められた線を境に、その下と上とで、非連続的に強度が異なると言えるのでしょうか。

(回答)

- 計画堤防高まで整備された堤防においては、計画高水位を超えて水位が上昇すると、うねり等によって水は堤防天端まで達し、越水を想定せざるを得ません。
- 計画高水位を超えたらどんな場合でもただちに越水による破堤が生じるとは限りませんが、越水による破堤が起こることはないとは言えず、一連区間のうち、たとえ 1 箇所でも越水によって破堤すれば甚大な被害が生じることも想定せざるを得ません。
- なお、計画堤防高まで整備されていない堤防においては、計画堤防高から余裕高を差し引いた高さ以上に水位が上昇すると同様な現象となることを想定せざるを得ません。

※本質問は、平成20年8月25日に開催された滋賀県議会「琵琶湖淀川水系問題対策特別委員会」において、滋賀県から寄せられた質問に対して近畿地方整備局から回答した内容を中心に整理したものです。なお、現在は時点更新も含め内容を精査しており、最新の情報ではない場合があります。